

電友会だより

(発行日)

平成二十七年

三月一日

(発行者)

菊地 良三

電友会発足二十周年を迎えて

会長 菊地 良三 (昭和三十七年卒)



平成二十六年十月の定例総会で会長を仰せつかりました。今年には電友会発足二十周年という節目の年にこの重責を担う重大さを改めて感じているところでございます。初代の故真田賢祐会長が幾多の困難を乗り越えこの電友会を発足させ、その後 栢森、手代木、山口、荒明、西村、根本、棚木の各先輩方が脈々と築いてこられたこの電友会の伝統をとにかく壊さないように、かつ迷惑をかけないように頑張っていく所存ですので絶大なるご支援、ご協力を何卒宜しくお願い致します。

さて、電友会は、世代を超えた同窓生仲間との交流を目的に活動してきたわけですが、遺憾ながらその規模は縮小の一途をたどっております。年長の先輩方は健康上の理由で退会されるケースが多くかつ新しく電友会員として仲間に入られる方々がほとんどなく、昭和五十年卒会員一名以降ゼロとなっております。これは、若年層の関心不足が考えられますが、我々のPR不足が大きな原因と考えられます。

卒業してそれぞれ自分の道を歩んで来ると、職場の友人との関わりが現職時は勿論退職後も長く継続することは当然の事ですが、昔三年間それぞれの時代に学んだ同窓生との「絆」もまた捨てがたく大切なものであり、そこには年代を越えて青春の熱い血がよみがえってくるものと信じます。

また同級生の中でまだ未加入の方々にも呼びかければ加入してもらえる可能性のあるものと思いますので、同級会等での会合の機会を利用し、入会を勧誘して頂ければ幸いです。

さて、電友会の活動と言えば、年一回の定例総会が大きなイベントですが、遠方の会員との唯一の情報交換手段であります「電友会だより」の発行が大きなウェイトを占めております。これは、電友会活動の全般をお知らせする大切な活動として位置付けており、会員の皆様には年一回必ずお手元にお送りさせていただいております。

そのほか、春には地元を学ぶために「史跡探訪」、秋には各種事業所等を見学する「施設見学」等を企画しております。遠方の会員にも参加して頂ければ有難いのですが、距離的に考えても参加を呼びかけるのは困難であるとの判断で地元会員主体のイベントになっていくのが実情です。

電友会がこれから会員数が増え、益々発展していく事を念じながら今後のご支援、ご協力を切にお願いする次第であります。



電友会 20周年



前会長の挨拶

前会長 棚本 武夫（昭和三十六年卒）



会工電友会が発足して早二十年経過しました。思えば第一卒業の真田さんが中心となつて本会を立ち上げて以来、その後の社会環境の大きな変化の一つとしてインターネット配信などに見られる情報化社会の発達は便利な反面様々な問題が露呈しているのは皆さん承知の通りですが、情報通信に頼り過ぎて生の対人的な付き合いの煩わしさから逃避して人間本来の帰属意識が薄らいでいると感じられるのは私の思い違いでしょうか？

四年前の東日本大震災で「絆」という文字が今更のようにクロローズアップしたことは人間の付き合いは損得を超越した所謂、自分自身は他人のお蔭という感謝の意識を強く意識された結果だと思います。

さて、冒頭の帰属意識に戻りますが、本会入会の会員数の低迷が役員会などで取沙汰されていますので各年度同級会にも声掛けして会員の増加を図つたらどうかと思います。それにはこれまでの活動を見直して魅力のある会にするのも必要かとも考えられ、例えば社会の一線を退いた立場でも余り負担にならない程度で自分の趣向以外を学ぶ等それこそ最近話題の長寿社会のボケ防止に役立てたら幸いと念じながら前会長の挨拶とします。



会員が たくさん
増えますよう



《電友会の活動報告》

◇史跡探訪（五月）

「電友会史跡探訪記」

会津若松市 大川原 史郎（昭和三十年卒）

今回の史跡探訪は門田町の東南地区に残されている史跡を訪ねる事にしました。五月二十七日朝、十名の会員が集結、筆者案内のもとで、一日を有意義に過ごしました。以下訪問順に従い報告します。

一、野寺薬師のじやくし（門田町堤沢）

ゴルフ練習所の近くにある慈光寺（曹洞宗）内に在る薬師堂で、会津五薬師の一つ、南の薬師が祀られていたと言う。

二、白龍山泰雲寺（曹洞宗）（門田町面川）

戊辰戦争の終盤に、この泰雲寺においても家老、内藤介右衛門の一族が集団自決し、この寺に埋葬された。

八月二十三日、城内からの鐘の音を合図に籠城戦に入り、武士家族は三の丸より入城したが、入城出来ない家族も相当数にのぼった。

大手門前の内藤家においても、万一の場合は親戚一同が行動を共にする申し合わせが為されていたが、手違いがあり、菩提寺である面川

の泰雲寺に避難する事になった。当主介右衛門信節のぶときの父可隠夫妻かいはん、

信節妻や子供など九名の他、家臣や親戚を合わせた十九名である。

当初城南方面は、西軍の包囲網も緩かったが、九月十七日には完全制圧され、敵軍重囲の真つただ中に泰雲寺は、孤立した形となつてしまった。

かかる状況の中で、内藤可隠は自刃を決意し、十九名全員が寺に火を放ち自刃したのである。

三、柴五郎大将「思い出の和歌」碑（門田町面川）

泰雲寺門を出て南方向50mほど先の国道121号線沿いに湯殿山碑が建っている。その裏面に

「五十とせのむかしのままに残りけり 柿の実うりし 道のべのいし」
 柴大将が戊辰戦争直後にこの道端で柿売りをした「思い出の和歌」（昭和四年建立）が刻まれている。

柴五郎は戊辰の役の際には十歳、西軍城内進攻の前々日に母親に門田面川の沢部落にある柴家の山荘に行くように指示され移る。

翌八月二十三日邸に残った家族は城内に入らず、全員（女子五名）自刃すると言う苛酷な出来事に遭遇した。会津藩降伏後は、斗南に移り、父親と厳しい生活環境を耐え、その後陸軍幼年学校に入校し以後砲兵将校として頭角をあらわし、北京の駐在武官時代発生した義和団事件での対応では各国からの称賛を受け、陸軍大将で退役し昭和二十年十二月死去。

四、一堰萩之原地蔵尊（門田町一ノ堰）
いちのせきはぎのはらじぞうせん

堂内に入ると柔和な顔の六体の木造地蔵像が迎えてくれる。
 「今から一〇〇年前頃、村人の夢枕に地蔵尊が現れ、霊木をもって六体の我が像を刻み安置せよとお告げがあった」との伝承が在る。諸国修養の僧、向菅西入上人の発願であまねく喜捨を仰ぎ、金色の六地蔵尊を修造し、宝永五年（一七〇八）に入仏供養を行ったのが現在の地蔵尊である。

五、光明寺（門田町一ノ堰）
くわうみやうじ

会津戦争の終盤、この一ノ堰地区において、九月十五日から十七日にかけて、城内への食糧補給路の確保をめぐり、会津軍と西軍と激烈な戦いが起り、多くの戦死者が出た。これを「一ノ堰の戦い」と言う。光明寺にはこの戦いで戦死した会津藩士の墓が建てられている。
 ・一ノ瀬要人 会津藩家老（一三五〇石）・山本権八 山本覚馬・八重の父

六、蒲生秀行廟

天正十一年（一五八三）蒲生氏郷の嫡男として生まれ、母は織田信長の娘冬姫である。
 氏郷の死に伴い十二歳で九十二万石の家督を継ぐが、三年後に宇都

宮十八万石に移封させられた。
 関ヶ原の戦いの結果、会津六十万石にカムバックした秀行は、慶長十六年（一六一一）の大地震に見舞われ、翌十七年五月死去した。享年三十歳、跡は長男の忠郷が継いだ。
 秀行廟は高い二重基壇の上に、石造五輪塔を据えて、木造の御霊屋みたまやはこれを覆う鞘堂さやどうになっている。



いざ!出発



野地薬師



光明寺



白龍山泰雲寺

◇研修会(八月)

「施設視察・研修会」を開催

会津若松市 浅田 誠 (昭和四十三年卒)

本会の主要行事である「施設視察・研修会」は、今回も「若松会工会」と合同で開催し、参加者二十四名のうち会工会からは十四名に参加して頂き、例年通りの規模で成功裏に実施出来ました事を冒頭に報告し、次回以降も一人でも多くの参加者を募る事が出来るよう、以下に見学会の報告をさせていただきます。

なお、報告の前に、特筆すべき事項として、本会の副会長(当時)で昭和三十年卒・大川原史郎さんのお兄さんも本会の会員としていわき市に在住しておられ、一昨年の九月に設立されました「いわき会工会」の会長をされておられる昭和二十八年卒・大川原昌之さんを窓口として「いわき会工会」の三役の方々と昼食懇談会を開催出来た事は、この上ない喜びであると同時に、会工電友会のメンバーが全国至る所で活躍され、要職に就いておられることを、身を持って会得する機会となりましたし、会工電友会の層の厚さと幅の広さを再認識し、大きな誇りと自信を持つことが出来た見学会でもありました。

紙面をお借りしまして、今回の「施設見学会」に花を添えて頂きました「いわき会工会」の関係者の皆様方に対し、有意義且つ爽りある密度の濃い親睦を深めることが出来たことについて、心より厚く御礼申し上げますとともに、ご健勝とご活躍を衷心より御祈念申し上げます。

さて、今回の「施設見学会」は、八月二十一日(木)の朝七時三〇分に会津若松を出発し、午後六時までのスケジュールで、いわき市佐糠町にある『常磐共同火力(株)勿来発電所』を訪問し、「従来型火力発電」と最新の「石炭ガス化複合発電(IGCC)」について視察研修をさせていただきました。

施設の概要について述べますが、「従来型火力発電」は、ボイラー内で石炭・重油などを燃やして作った蒸気力でタービンの羽根車を高速回転させて、発電機を回して電気を作るシステムですが、「石炭ガス化複合発電(IGCC)」は石炭をガス化し、発生したガスでガスタービン回す発電と、ガスタービンの排熱を利用して蒸気を発生させ

て蒸気タービン回す二段階の複合発電方式で、高効率の発電が可能になり、同じ発電電力量でも、石炭消費量は二割削減でき、二酸化炭素排出量も二割抑える事が出来る優れた発電システムだそうです。

この他にも、様々な環境保全対策はじめ低炭素社会の実現に向けた取り組みに触れ、久しぶりに現役時代を思い起こさせられ、感動を体験した思いでありました。

いわき市健康・福祉プラザゆったり館でいわき会工会さんを交えた昼食懇談会の後、石炭と化石のミュージアム「いわき市石炭・化石館ほるる」を観覧し、化石の太古時代、昭和の炭鉱時代などを見学し、貴重な歴史学習の一助にもなりました。

以上の「施設見学会」を踏まえ、参加者からは「見応えがあった、種々勉強のひと時になった、次回は何を体験できるか楽しみだ」などの声を聞かせて頂き、企画・運営に携わって行動を共にして頂いた関係者に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

常磐共同火力(株)
勿来発電所



いわき市健康・福祉プラザゆったり館

◇定例総会(十月)

第二十回「定例総会・懇親会」を開催

事務局長 白井 達夫(昭和四十三年卒)

第二十回の定例総会および懇親会は、平成二十六年(二〇一四年)十月十七日(金)に、例年継続した開催会場になっている会津若松市の野口英雄青春通りに在る「ホテルニューパレス」で、会員二十九名とご来賓の方々七名を加えた三十六名で開催されました。

本総会の開催日は、例年十月の第三土曜日に開催される「会工同窓会総会」の開催日と連動し、遠方の会員の方々が「電友会総会」と「会工同窓会総会」にセットで参加し易いように設定しており、遠方の参加者の皆様から都合が良いとの声を頂戴しております。

総会は、物故者に対する黙祷と校歌斉唱の後、昭和三十四年卒の渡部昭寿さんを議長に選出し、平成二十五年(期間：平成二十五年十月一日～平成二十六年九月三十日)の活動経過報告、会計・会計監査報告ならびに平成二十六年の事業計画、会計予算、役員改選の各議案が満場一致の拍手で承認・可決されました。

本総会で退任されました役員の皆様、お疲れ様でした。皆様のご尽力に御礼申し上げますとともに、今後のご指導ご協力をお願いいたします。特に、大川原史郎さん(昭和三十年卒・副会長)には恒例の「史跡探訪」の講師として、また、浅田誠さん(昭和四十二年卒・事務局長)には会工同窓会の役員としてのご指導を宜しくお願いいたします。

平成二十六年度は①電友会だよりの発行(二月末)②史跡探訪(五月予定)・施設見学会(八月予定)③会員拡大を主要活動として展開しますが、会員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

議事終了後には、会工高・電気科の井上浩一科長より、卒業生の進路状況など後輩の近況報告を受け、後輩の活躍に全員の大きな拍手でエールを送ったところであります。

続いて総会終了後の記念講演として、会津若松市環境生活課 主査 熊谷徳子氏を講師にお招きし「地球環境問題と環境にやさしい暮らし」と題した講義を拝聴し、地球環境保全の為に身近な些細な事でも真摯に取り組む必要性を改めて認識しました。

恒例の懇親会では、昭和三十六年卒の根本顧問の紹介によるフラダ

ンサー二名が華を添えて頂き、例年どおり大いに盛り上がりました。時が経つにつれ参加者の口調も一層滑らかになり「事務局、総会の時間長かったぞ」「コンパニオンはどうした?」等々のご意見を頂戴しながら、和気藹々と楽しいひと時を過ごしました。

この様に、人生・人格形成での重要な青春時代を同じ学び舎で過ごした同志が一堂に会して懇談できる本会は唯一無二であり、この事を多くの仲間にも広報して、更なる組織拡大に一人ひとりが宣伝・営業マンになって頑張ることを誓い合って、応援歌と万歳三唱に願いを託して、本会を締めくくりました。



【頑張れ応援歌】

頑張れ 頑張れ 頑張れ 健男子

栄えある健児よ

理想の盾をば振りかざし

破邪の剣とりて起て

打てやこらせや

我等が敵を

勝ちて勇姿を

世界に示すはこの秋ぞ

奮るえや 会工の健男児

フレーフレーフレー



《電友会仲間の活動状況》

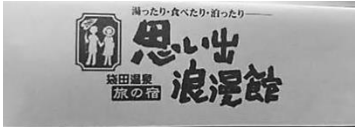
熊の子会 in 茨城 2014

湯川村 佐野 常雄 (昭和31年卒)

私たちの名称は、在学中担任「大澤熊義」先生で、大変思い出のある先生の熊の子会と命名し毎年、幹事の地方名を入れて、一泊・二泊(沖繩、岡山、京都大阪)の同級会を行っています。二十六年は、日立にお住いの、土屋・渡部(正)・佐藤光一君の当番で、六月の初めから計画し、十月二十九日(水)〜三十日(木)、茨城県大子町袋田温泉「思い出浪漫館」で、二十一名(内 夫人五名)、夫人の参加は古希の沖繩会場から始まり家内同伴の旅行で毎年五組、前年は七組となり楽しいものです。会津からは、私たちと西村夫妻・鈴木(安)君の五名でJR水郡線に初めて乗ってみようとなり、会津若松十一時五十七分に、車内で昼食を摂り、郡山十三時四十五分、袋田着十五時四十二分。秋の紅葉を眺め、良い天気恵まれ長い旅をいたしました。ホテル集合十六時二十分会費納入後、ホテルの車にて、土屋幹事の案内で袋田の滝の夕映えに照らされた素晴らしい処を一時見ることができました。入浴後会合の前に浴衣姿で記念撮影し、物故者十一名へ黙祷を捧げご冥福を祈りました。次に、涌井君の指揮で校歌斉唱(四番まで)後、土屋幹事長が挨拶され、佐藤光一君(初めて参加)の乾杯の発声で飲会が始まりました。近況報告では、二分間制限時間もオーバーして、楽しい報告が聞けました。カラオケも自慢の曲が次々と切れることなく終了となるほどでした。二次会は、幹事さんの部屋でほぼ全員入り、生オケで昔の歌謡となり、十二時近くになってしまいました。



袋田の滝



竜神峡大吊橋にて

二日目の三十日は、朝食七時 和洋食のバイキングで賑やかに三十分で終了し、八時ホテル発で、土屋幹事長のガイドで、竜神峡大吊橋渡(本州最長吊橋)↓「西山荘」(水戸黄門の隠居所・終焉の地・大日本史編纂地)↓「テラパーク」(東海第二原発PR館)で説明を受けました。↓那珂湊魚市場で昼食と買物をし解散いたし、JR袋田発十六時二十四分、郡山着十八時二十六分、売店より夕食と晩酌のカップを飲みながら会津若松着二十時二十三分でした。

次回は、地元会津でやっつてはどうかとなり西村・鈴木(安)・私の三人で引き受けて参りました。また、電友会会員募集には、白井事務局長より、二十六年の会報を預かり、説明の結果十三名が早速入会され、会費も納入いたしました。

出来ましたら、次回の十月の電友会の総会にも出席してみたいとの要望ありましたので検討しているところでございます。

その際は、どうぞよろしく歓迎くださるようお願い申し上げます。



J R水郡線・袋田駅



《会工校・電気科からの寄稿》

「電気工事士資格試験に思うこと」

電気科長 井上 浩一

本校では、平成二十三年度入学生徒より、第二種電気工事士資格試験、全員受験・全員合格の目標を立て、学科職員全体で資格指導に取り組むことになりました。

生徒は入学前の三月に第二種電気工事士の資格について説明を受け、学科の方針のもとに受験申込をしているものと思われま

す。電気科とは、どのような人材を育成する場所なのでしょうか？

近年の工業生産の発展、情報化社会の発展は、安定した電気の供給があつて成立するものです。電気というものが、人間社会を支えていると言えるでしょう。

東日本大震災以降、復興需要もあり、電気の重要性はますます高まりました。また、団塊の世代の大量退職に伴い、企業では電気関係の人材不足が叫ばれています。

現在、工業高校の電気科卒の生徒に対する企業の期待は、大変、大きいものを私は感じています。

一方で、電気科所属の生徒に、自分達教員は何かしらの影響を与えているのだろうかと思ふときもあります。最終的に自分自身が思うのは、電気科所属の教員なのだから、電気に関する知識、技能を自分が身に着けて、自分の思うところで指導するしかないと言ひ聞かせています。

このような思いで取り組んできましたので、今年の卒業生には、「電気工事士の資格は卒業証書に準ずるものだよ。」とこの場を通して、伝えたいと思います。

さて、平成二十六年度終了時の電気工事士取得者は次表のようになりました。(%)は、在籍数に対する合格者の割合を示す。

取得の有無に関わらず、電気工事資格取得試験に挑戦したことに大きな意義があると思ひます。今年度の未取得者には平成二十七年年度の奮起を期待します。

入学年度 (二十六年学年)	第一種電気工事士 合格者数	第二種電気工事士 合格者数
平成二十六年入学生 (現一年生)	二十六名(65.0%)	—
平成二十五年入学生 (現二年生)	三十四名(89.4%)	八名
平成二十四入学生 (現三年生)	三十八名(97.4%)	五名

今年の三年生の進路は、時代の流れにも乗り、多くの生徒が希望の進路に進むことができました。本校の伝統と卒業生の活躍が、後押しした結果であると考えています。

在校生には、自分のおかれた環境の優位性を感じるとともに、会津工業高校の電気科卒業としての実力を備えてほしいと思ひます。

今年の卒業生のみならず、会津工業高校電気科はどうでしたか。私は、君達と電気工事士の指導を通して楽しく勉強することができました。電気工事資格指導が楽しいと思へたのは、君達の存在があつたことです。多くの卒業生が、電気に関する分野で活躍してくれるのは、大変うれしいことです。電気は社会基盤を支えていますので、自分が学んできたことに自信を持って、自分が選んだ職業に真摯に取り組んでください。

電友会の皆様、本科教職員は、電気業界を支える人材育成に向けて取り組んでおります。今後ともご指導御意見を頂ければ幸いです。教職員のお励みになります。今後ともよろしくお願ひ致します。

Ω
A
V



「電気科で学んで」

三年担任 清水裕二

近年の日本は毎年のように大きな自然災害にみまわれています。今年だけを振り返っても大雪の被害では甲府や徳島、北海道。火山噴火では御嶽山。地震では長野。大雨による災害に至っては九州、山口、京都、広島と至る所で甚大な被害が発生しています。このような自然災害に遭遇した被災者が真っ先に必要とするのが水、食料、そして「電気」です。徳島の大雪で被害にあった場所は、徳島でも山奥に位置する高齢化世帯が大半の限界集落の地区でした。着雪による重みで木や電柱が倒れ停電となり電化製品が使用できず、暖もとれず、ご飯も炊けない、風呂にも入れない状況になってしまいました。道路もなかなか復旧せず住民達は一週間近く大変な思いをしたそうです。

この事例でもわかるとおり電気は生活には無くてはならない存在となつていきます。私たちの普段の生活でもありとあらゆる物に電気が使われています。産業においても製造業、運輸業、金融業、IT産業などすべての業種において電気が必要です。もし大規模な自然災害が発生して電気が完全にストップしてしまったら社会生活は即マヒし、日本国中が大混乱になってしまいます。

このように、現代社会にとつて電気は無くならない存在です。将来的にはさらにその重要性は増すことが考えられます。そして私たち電気科で学んだ者はそれを十分理解し、それぞれの立場で人々の生活や産業を支えなくてはなりません。今年の卒業生も東北電力などの電力系企業や電気の保守点検をする電気保安協会、東芝や三菱系の製造業、ビルメンテナンス関係の企業、JRや小田急電鉄などの運輸業などへの就職が決まっています。さらに福島大学や日本大学、東洋大学に進学し電気の道を究めたいという生徒もおります。それぞれの道で電気科で学んだ精神を活かして国民の生活や産業社会を支えて欲しいと願っています。



卒業



「電気科での三年間」

三年電気科 丸山直幸

一年の時の科の対面式、私たちより一回りも二回りも体の大きな先輩方の姿を見て、会津工業高校電気科の空気を肌で感じ、圧倒されました。一年後、二年後と時が経てば目の前にいる先輩方の様な大人になれるのか、期待と不安が入り混ざっていました。

私たちは担任の清水先生のもとに、男子三九人、女子一人という男子高校のような形で入学しました。最初は色々とぶつかることの多いクラスでしたが、同じ場所を過ごすなかで一体感の強いクラスになっていきました。しかしながら限度の超えた行動も少なくはなく、その度に清水先生には多くの苦労や迷惑をかけてきました。今の私たちがいるのは清水先生の指導のおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

これまでに、文化祭の時に自主製作映画を作り、球技大会や体育祭にはクラス一丸となって取り組み、修学旅行では一生忘れることのない思い出ができ、進路実現のために皆で協力したことなど、思い出を上げればキリがありません。

私たちが先輩となり、卒業生という立場になって一年の頃感じたことを思い返すと、まだまだ私も子供だと思えます。入学したての頃は人としても学生としてもまだまだ未熟者でした。過ごしてきた高校生活や先生方のご指導のもと、学生としては一人前になりましたが、一人の社会人としては半人前です。これから社会に出ているんな壁にぶつかることも多々あると思いますが、高校で培った経験を活かし、また一回りずつ大人になれるよう努力していきます。

三年間一緒に過ごしてきたクラスメイト、人として成長させてくれた先生方、いつも支えてくれた家族に感謝し、社会人として頑張っていけます。お世話になりました。

昨日は感謝を
今日は熱を
明日は希望を

「二年間を振り返って」

二年電気科 芳賀 寛太

昨年の今頃、私たちは会津工業高校電気科に入学するため勉強に励んでいました。そして、各自が一期選抜入学者試験、二期選抜入学者試験を経て、合格した会津工業高校電気科四十人が今の私たちです。入学してから早速、第二種電気工事士の資格取得に向けての勉強が始まりました。その頃の私たちは電気知識は全く知らない状態から始まりました。しかし、先生方の熱心な授業と放課後の補習のご指導のもと次第に「分らない」という呻き声が「分かる」という喜びの声に変わっていきました。そして、二〇一三年六月二日、第二種電気工事士の筆記試験を受検しました。その中で三十名が合格しました。合格した者は、実技の補習が始まり、七月二十七日の実技試験を終え、見事に二十七名が合格しました。

一年生の時は、すべてが初めてでした。球技大会、競歩大会、ミニ文化祭すべての行事が緊張感を持って臨んでいました。気が付いたらもう一年生が終わっていたという状況でした。

そして、一名減ってしまい三十九名が二年生に進級しました。二年生になると、みんなが楽しみにしていた修学旅行がありました。三泊四日の京都大阪旅行です。クラスみんなで旅行計画を立て、十一月五日、京都へ向かいました。この修学旅行でクラスの団結力が強くなったと思います。

もう、数ヶ月で三年生になります。これから、私たちは自分たちの進路実現のため一人一人が自分と向き合って、進路を決定しなければなりません。

先生方や両親としっかり話し合い、秋には、クラスみんなが笑っていられるように頑張ります。



E

ELECTRICITY

《会員からの特別寄稿》

「会工電友会創設の思い出」

会津若松市 山口 健（昭和二十九年卒）

平成七年、定年退職後の職場、玉川エンジニアリングにお世話になっていた時に、当時の社長、樋口千代喜さん（昭和三十二年卒）に電気科創立五十周年記念行事の話が持ち込まれ、最初の打ち合わせが、東北電力若松営業所で行われ、これに出席したのが、電友会との出会いでした。これに続く同年六月に電友会設立総会が「米熊」で行われております。記憶になかったのですが、三十四名の方々が黒髪も豊富に写った写真があります。

この後、電気科一期生の斉藤照雄さんの店「若松食堂」で何度かの打ち合わせがあつて、同年九月三十日日本番の「会工電気科創立五十周年記念式典」が「東山温泉・東鳳」で行われました。実行委員長・斉藤照雄さん（昭和二十六年卒）、副委員長・手代木徳夫さん（昭和二十八年卒）。「ここに、来賓のご紹介などをさせて頂きたいところですが、来賓には市長を始め、往年の先生方も出席されているようですが、出席者名簿が無く写真からは判別できそうもありません。写真には、百七十名ほどの方々が写っております」

私はこの大会では、会場係として、矢木栄次郎さん（昭和二十七年卒）の指揮のもとテーブルの配置をやりました。驚いたのは、電気科の卒業生の中には地方議員の方がおられ、それも一人二人ではなく、議員さん達で一つのテーブルができました。紹介しますと、左記の方々です。（敬称略）

☆いわき市議会議員・蒲生伸吾（昭和二十六年卒）

☆会津若松市議会議員

・渡部昭寿（昭和三十四年卒）・藤田晴史（昭和四十年卒）

・近藤信行（昭和四十年卒）・浅田誠（昭和四十三年卒）

☆猪苗代町議会議員・長谷川与一（昭和四十年卒）

☆会津高田町長・杉本憲司（昭和四十一年卒）

当時の電気科は、松下政経塾の次位の観が有り、菊地巖先生の薫陶の故か？などと、思った次第です。

「会工電友会」役員（任期…平成二十六年十月～二十八年九月）

役職名	氏名	卒年	備考
会長	菊地 良三	S37	新任(前副会長)
副会長	佐野 常雄	S31	留任
	渡部 昭寿	S34	留任
	成田 良	S35	新任(前監事)
監事	栗城 隆彦	S36	留任
	長谷川 与一	S40	新任(前理事)
会計	近藤 信行	S40	留任
事務局長	白井 達夫	S43	新任(前庶務)
庶務	鹿目 忠明	S40	新任(前理事)
理事	星 行雄	S30	留任
	大越 一郎	S35	新任
	中丸 茂由	S37	新任
	藤田 晴史	S40	留任
	菊地 進	S47	新任
顧問	栢森 幸雄	S27	留任
	手代木 徳夫	S28	留任
	山口 健	S29	留任
	荒明 正義	S30	留任
	西村 一夫	S31	留任
	根本 一雄	S36	留任
	棚木 武夫	S36	新任(前会長)

「会工電友会」卒業年別会員数(平成二十七年一月末現在)

卒年	会員	卒年	会員
S 26	8	S 40	6
S 27	11	S 41	1
S 28	14	S 42	2
S 29	8	S 43	9
S 30	12	S 44	1
S 31	17	S 45	0
S 32	1	S 46	0
S 33	3	S 47	2
S 34	9	S 48	0
S 35	7	S 49	0
S 36	11	S 50	1
S 37	5		
S 38	0		
S 39	3		
		会員数	131名

(注)昭和三十一年卒↓昨年十月の総会後に十三名が新規加入!

会員の増加を図りましょう!
会工電気科卒の知人・友人をお誘いのうえ、事務局までご一報をお待ちしております。
事務局：白井達夫
携帯 090-3753-5718

「会工同窓会」の役員に就いている電友会会員の紹介
(平成二十六年十月末現在)

会工同窓会 役職名	氏名 (敬称略)	卒年
筆頭副会長	藤田 晴史	S40
副会長	田中 健一	S42
副幹事長	浅田 誠	S43
幹事	渡部 昭寿	S34
〃	近藤 信行	S40
〃	野中 寿勝	S50
〃	長谷川 与一	S40
〃	佐野 常雄	S31
〃	白井 達夫	S43
監事	西村 一夫	S31
参与	大川原 昌之	S28
〃	棚木 武夫	S36
〃	菊地 良三	S37

同窓会役員の皆様の
ご活躍をお祈りいたします。

【編集後記】

今回も無事「電友会だより」を発行することが出来ました。寄稿くださいました皆様に感謝申しあげます。電気科の先生方や生徒の皆さんの熱き想い、諸先輩のご活躍の様子を伺う事ができ、嬉しく思っております。

今冬の会津は、早い降雪で長い冬となっておりますが、この気候風土が我慢強い会津人を育む環境のひとつかな、と感じています。間もなく春がやってきます。今年、県内で大型観光キャンペーン「福が満開、福のしま」が展開され、会津でも様々なイベントがありますので、多くの観光客で賑わう事を期待しているところです。

故郷会津、母校会工、そして本会運営に対し、会員皆様の温かいご支援をお願い申しあげます。(編集委員 白井達夫 昭和四十三年卒)

*編集委員



根本 一雄(昭和三十六年卒)
棚木 武夫(昭和三十六年卒)
菊地 良三(昭和三十七年卒)
近藤 信行(昭和四十年卒)
鹿目 忠明(昭和四十年卒)
浅田 誠(昭和四十三年卒)